

## 令和元年度 キャリア教育委員会

2015年にオックスフォード大学と野村総合研究所の共同研究により発表された「601種の職業ごとに、コンピュータ技術による代替確率の試算」という調査は大きな話題となりました。それらから、近い将来、自動化やインターネットを含めたAI（人工知能）の進化に伴う影響を受ける仕事を中心に、現在の仕事の半数がなくなるだろうとされています。

小学校・中学校の教員の仕事はなくなるだろうと考えられています。単に知識や技能の伝授、習得ならばAIや機械にも可能かもしれません。しかし、子どもたちが、人間形成に重要な人間関係や社会との関わり方をきちんと学ぶには、専門職としてそこに従事する教員の力が必要だと思われているからです。

キャリア教育における専門職としての教員の役割は何でしょうか。

キャリア教育では、子どもたちが、どんな職業があるのかを知ったり、自分の適性を考えたりするだけでなく、人や地域と関わり、知り、理解しながら、将来の自分の姿や行動の仕方を自分で考えていく力をつける必要があります。そのための支援が教員の役割だと思います。

子どもたちが、「なぜ働くのか」「どうやって職を選ぶのか」を考えるには、実際に働いている大人から直接学び、感じる事が大切だと思います。そんな出会いの機会をどう仕組んでいくか、委員の先生方の実践がお役に立つと思います。ぜひ、ご覧ください。

### ○「ふるさと伊那谷学」を軸としたキャリア教育の実践

伊那中学校 松島利之 委員

### ○「おしごとチャレンジ」への取り組み

辰野中学校 清都しのぶ 委員

### ○6年生修学旅行（東京社会見学）におけるキャリア教育の視点

飯島小学校 宮澤宗一郎 委員

### ○地域の人やもの、自然にふれる体験的な活動を大切にしたキャリア教育

美篤小学校 有賀久美 委員

委員長 島尻英二 長谷中学校